

公益財団法人 日本バレーボール協会
第10期・2019年度事業報告
(2019年4月1日～2020年3月31日)

1. 事業の概況

(1) 男女日本代表チーム・各カテゴリーの主な戦績

- シニア男子： ワールドカップ 4位
- シニア女子： ワールドカップ 5位
- ジュニア男子： 第3回アジア (U23) 選手権 3位
- ジュニア女子： 第20回世界ジュニア (U-20) 選手権 初優勝
- ユース男子： 第16回世界ユース (U19) 選手権 6位
- ユース女子： 第16回世界ユース (U18) 選手権 5位
- 大学生男子： 第30回ユニバーシアード 5位
- 大学生女子： 第30回ユニバーシアード 3位
- ビーチ男子： 世界選手権 37位 (石島・上場ペア)
- ビーチ女子： 世界選手権 33位 (石井・村上ペア)

(2) 今年のトピックス

- ① FIVBワールドカップバレーボール2019男女大会が国内8都市で開催され、男女それぞれ12チームが参加し、延べ132試合が行われた。日本男子は4位、女子は5位となった。
- ② ビーチバレーボールワールドツアー4 star 東京大会を、東京 2020 大会テストイベントを兼ねて潮風公園で開催した。
- ③ 第2回バレーボールネーションズリーグ (VNL) を男女とも東京にて開催した。
- ④ 国際親善試合を、男子はカナダを迎え東京・渋谷区、中国を迎え鹿児島・薩摩川内市において、女子はチャイニーズタイペイを迎えて埼玉・深谷市で開催した。
- ⑤ 第20回女子U20 (ジュニア) 世界選手権メキシコ大会において初優勝を成し遂げた。
- ⑥ 体罰・暴力・ハラスメント撲滅対策委員会を立ち上げ、根絶に向けての活動をスタートした。

(3) 決算について

今年度はワールドカップ、ネーションズリーグの開催経費負担や東京オリンピックに向けた代表チームの強化に注力するための赤字予算を見込んだが、関係者を含む事業への積極的な取り組みが功を奏し、最終的には黒字決算で終わることができた。

収入面ではワールドカップの盛況などにより、予算を711百万円上回る3,875百万円となり、支出面では大会費用等の削減に努めつつ、売り上げ増に伴う費用の増加もあり、44百万円増の3,600百万円となった。この結果、税引き後の最終利益は149百万円となった。

★名称詳細★

FIVB：国際バレーボール連盟

AVC：アジアバレーボール連盟

VNL：バレーボールネーションズリーグ (Volleyball Nations League)

NTC：味の素ナショナルトレーニングセンター

Vリーグ機構：一般社団法人日本バレーボールリーグ機構

NF：各国の競技連盟 (National Federation)

JSPO：公益財団法人日本スポーツ協会

BVT：ビーチバレーボールツアー

MRS：JVAメンバー制度登録システム

2. 事業内容

(1) 競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

①日本代表 (全日本) チーム及び選手の育成・強化事業

全国の社会人、大学生、高校生の中から選抜された有力選手による日本代表チームを編成し、国際競技力向上を図るため以下の諸事業を実施した。

1) 男子・女子シニア日本代表チームの戦績と強化策実施

東京 2020 大会での目標達成のため、男子、女子チームとも 3 シーズン目の中垣内・中田監督体制でのチームを更に強化した。昨年度新設された第 2 回 FIVB バレーボールネーションズリーグ (VNL) において、男子は 7 勝 8 敗で昨年度大会を上回る 10 位の成績を収めた。女子は、7 勝 8 敗で 9 位となった。

また、アジア選手権は、男子は準決勝でオーストラリアにフルセットの末惜敗したが、3 位決定戦で韓国に勝利し銅メダルを獲得した。女子は、スケジュールの関係上ジュニア世界選手権で初優勝した相原監督に指揮を任せ、そのジュニアチームのメンバーを軸に派遣した。その結果準決勝で地元韓国、決勝でタイをそれぞれ 3 対 1 で下し、本シニア大会での 2 連覇を達成した。

本年度の最終ターゲットの 2019 ワールドカップにおいて、男子は初戦イタリア戦勝利で勢いがつき、ロシア、カナダ、アルゼンチンを破り大会初の 8 勝を挙げ、1991 年以来の 4 位を獲得することができた。女子はランキング上位国のセルビアに勝利したがアメリカ、ロシアにはフルセットまで追いつめるも敗戦し、6 勝 5 敗の 5 位にとどまった。

なお、女子は世界のトップチームが集いスイスで開催されるモントルーマスターズに参加し、シーズン開幕戦をポーランドに次ぐ準優勝でスタートした。

■男子：国内合宿・NTC、薩摩川内を中心に実施

海外合宿・VNL 大会前に欧州の大型チームと強化合宿を実施

■女子：国内合宿・NTC を中心とし、他に広島市の支援を受け広島市、呉市で実施

海外合宿・大型チームのオランダと合同強化合宿を実施

注) シニアチームとはトップレベル選手で構成された日本代表チーム

2) 男子 U-23 日本代表チーム強化合宿

第 3 回アジア U-23 選手権大会優勝を目指し強化合宿を実施したが、大会では準決勝でフルセットの末敗戦。3 位決定戦で勝利し銅メダルを獲得した。

■男子：国内合宿・NTC を中心に実施

注) U-23 チームとは、2019年の大会出場を予定するため1997年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム

3) 男子・女子ユニバーシアード日本代表チーム強化合宿

イタリアで開催されたユニバーシアード大会(2年に1回開催)にて、男子は2大会連続のメダル獲得を目指したが結果5位。女子は3位で銅メダルを獲得し、3大会連続のメダル獲得となった。

■男子：国内合宿・NTC、他で実施

■女子：国内合宿・NTC、他で実施

注) ユニバーシアードチームとは、主に大学生を中心に構成される日本代表チーム

4) 女子ジュニア日本代表チーム強化合宿

1977年から開催され第20回大会となった世界選手権大会(U-20/於メキシコ)で、8戦全勝で金メダルを獲得し初優勝を飾った。石川真佑選手が大会MVPを受賞し、中川つかさ選手、曾我啓菜選手も各個人賞を受賞した。

■女子：国内合宿・NTC、他で実施

注) ジュニアチームとは、女子が2000年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム

5) 男子(U-19)・女子(U-18)ユース日本代表チーム強化合宿

男子はチュニジアで開催された世界ユース選手権大会で2大会連続のメダル獲得を目指したが結果6位。女子はエジプトで開催されセミファイナルでアメリカに敗れ、5~8位決定戦にまわりそのグループで最上位の第5位となった。

■男子：国内合宿・NTC、他で実施

■女子：国内合宿・NTC、他で実施

注) ユースチームとは、男子が2001年1月1日以降に、女子が2002年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム

②競技活動を行う選手の競技・練習環境の整備、セカンドキャリアに関する啓発、情報発信

③将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業

1) 全国小学生・中学生・高校生長身選手の発掘育成事業

将来有望な長身選手の発掘、育成、強化を目的に、公募および推薦によるオーディションを行い、選抜した有望選手の育成強化合宿を実施した。そして、有望選手のリストを中学生よりデータ化し、選手情報を体系的に強化委員会等で共有化した。

- ・全国小学生エリートアカデミーオーディション合宿(8月16日~18日)
- ・全国小学生エリートアカデミー年末合宿(12月26日~29日)
- ・全国中学生長身者選抜合宿(1次:10月11日~14日、2次:1月10日~13日)
- ・全国中学生長身者基礎合宿(2月6日~9日)
- ・全国9ブロック高校生長身者合宿(8月16日~9月7日:各ブロック2泊3日)
- ・第17回全日本ジュニアオールスタードリームマッチ(2月14日~16日)

また、中学生・高校生の両カテゴリー別の有望選手達による選抜チームを編成し、海外遠征で外国人選手との国際試合を実施。

- ・中学生選抜チーム(男子:オーストラリア、女子:オランダ)(2月21日~28日)

・高校生選抜チーム（男子：タイ[8月5日～11日]、女子：タイ[7月30日～8月5日]）

④競技力向上にかかわるバレーボール技術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査研究事業

- 1) 日本代表選手の科学的測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方立案とサポート。
- 2) 日本チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握。
- 3) トレーナー及びアナリストの育成、教育を行って日本代表チームに派遣するとともに、日本代表チームが利用する機材およびデータの管理・運用。
- 4) 日本代表チームにドクターを派遣し、歯科・整形外科診断を中心に選手の健康維持、怪我防止及び傷害発生時の対処、薬剤を手配。
- 5) アンチ・ドーピングの啓発を含むスポーツ・インテグリティの向上と強化をはかった。

⑤日本代表選手団の国際大会派遣事業

選手、チーム強化合宿の効果を検証するとともに、実戦（試合）を経て得られる技術、戦術他総合的な競技力向上を目的として以下の各大会に日本代表選手団を派遣した。

1) 男子：

<シニア>

- ・FIVB バレーボールネーションズリーグ 2019（参加16カ国・総当り戦）：10位
5/31～6/30 セルビア／東京／ブルガリア／アメリカ／ドイツ
- ・アジア選手権 イラン（9/13～21）：3位
- ・FIVB ワールドカップ 福岡／広島他（10/1～15）：4位

<アンダーカテゴリー>

- ・ユニバーシアード イタリア（7/3～14）：5位
- ・U-23 アジア選手権 ミャンマー（8/3～11）：3位
- ・U-19 世界選手権 チュニジア（8/21～30）：6位

2) 女子：

<シニア>

- ・モントルーバレーマスターズ スイス（5/13～5/18）：2位
- ・FIVB バレーボールネーションズリーグ 2019（参加16カ国・総当り戦）：9位
5/21～6/20 ブルガリア／トルコ／香港／東京／韓国
- ・アジア選手権 韓国（8/18～25）：1位（ジュニアチームを派遣）
- ・FIVB ワールドカップ 横浜／北海道／大阪他（9/14～29）：5位

<アンダーカテゴリー>

- ・ユニバーシアード イタリア（7/3～14）：3位
- ・U-20 世界選手権 メキシコ（7/12～21）：1位
- ・U-18 世界選手権 エジプト（9/5～14）：5位

(2) 国際大会開催事業及び国際貢献・交流事業

①国際大会開催事業

1) FIVB バレーボールネーションズリーグ 2019

FIVB バレーボールネーションズリーグは、参加権を与えられたコア12チームにチャレンジャー4チームが加わり、2018年からスタートした世界転戦型のリーグ戦方式の大会。

2018年に第1回大会が行われ、2024年までは、男女日本代表チームはコア12チームのひ

とつとして参加資格が与えられている。

■FIVB バレーボールネーションズリーグ 2019 男子東京大会

- ▶開催期間：6月7日（金）～9日（日）
- ▶開催都市：東京都調布市（武蔵野の森総合スポーツプラザ）
- ▶参加国：日本、アルゼンチン、ブラジル、イラン
- ▶試合数：延べ6試合《1日2試合×3日》

日付	試合結果	入場客数
6月7日(金)	日本 3-0 アルゼンチン(25-16, 25-16, 33-31)	4,200
6月8日(土)	日本 0-3 ブラジル(22-25, 19-25, 21-25)	7,200
6月9日(日)	日本 0-3 イラン(22-25, 21-25, 19-25)	6,000

■FIVB バレーボールネーションズリーグ 2019 女子東京大会

- ▶開催期間：6月11日（火）～13日（木）
- ▶開催都市：東京都調布市（武蔵野の森総合スポーツプラザ）
- ▶参加国：日本、ブラジル、セルビア、タイ
- ▶試合数：延べ6試合《1日2試合×3日》

日付	試合結果	入場客数
6月11日(火)	日本 1-3 ブラジル(17-25, 19-25, 25-20, 22-25)	4,200
6月12日(水)	日本 3-1 セルビア(19-25, 25-14, 25-23, 25-14)	4,300
6月13日(木)	日本 3-0 タイ(25-22, 25-22, 25-14)	4,000

2) FIVB ビーチバレーボール ワールドツアー 2019 4-star 東京大会

ワールドツアーはFIVB主催の毎年世界各地で開催されるビーチバレーボール界最高峰のイベント。大会は5段階のグレードに分かれ、今大会は上位から2番目の4 Star イベント。

- ▶開催期間：7月24日（水）～28日（日）
- ▶開催都市：東京
- ▶参加チーム数：男子41チーム、女子35チーム

日付	マッチスケジュール	入場客数
7月24日(水)	男女子選	800
7月25日(木)	男女本戦プール戦	1,083
7月26日(金)	男女本戦プール戦／男子 Round16	903
7月27日(土)	女子 Round16／男女準々決勝・準決勝	1,222
7月28日(日)	男女3位決定戦・決勝	1,260

- ▶優勝チーム：
 - 男子 Mol A./Sørum, C.（ノルウェー）
 - 女子 Agatha/Duda（ブラジル）

3) FIVB ワールドカップバレーボール 2019 男女大会

4年に1度開催されるバレーボール界で歴史と伝統のある世界最大規模のイベント。世界5大陸(アジア、北中米、南米、ヨーロッパ、アフリカ)からFIVBランキング上位2チーム、前年に行われた世界選手権での優勝国、そして開催国日本の計12チームが総当たり方式で競う大会

■女子大会

➤開催期間：9月14日（土）～9月29日（日）

➤開催都市：横浜、浜松、札幌、富山、大阪の5都市

➤参加国：各5大陸のFIVBランキング上位2か国、2018世界選手権優勝国、開催国
計12チーム

出場枠	チーム	
開催国	日本	
2018WCH 優勝国	セルビア	
アジア	中国	韓国
アフリカ	ケニア	カメルーン
ヨーロッパ	ロシア	オランダ
南米	ブラジル	アルゼンチン
北中米	アメリカ	ドミニカ共和国

➤試合数：延べ66試合（1日3試合×11日×2開催地）

➤日本代表試合結果

【横浜ラウンド】

日付	試合結果	視聴率／入場客数
9月14日(土)	日本 3-1 ドミニカ共和国(25-21, 25-11, 24-26, 25-14)	8.8% / 11,500
9月15日(日)	日本 2-3 ロシア(11-25, 25-23, 27-25, 19-25, 7-15)	9.4% / 11,500
9月16日(月)	日本 1-3 韓国(25-23, 19-25, 22-25, 25-27)	12.3% / 11,700
9月18日(水)	日本 3-0 カメルーン(25-27, 25-27, 25-20)	10.1% / 10,600
9月19日(木)	日本 0-3 中国(17-25, 10-25, 17-25)	9.3% / 12,000

【札幌ラウンド】

日付	試合結果	視聴率／入場客数
9月22日(日)	日本 2-3 アメリカ(24-26, 25-22, 21-25, 25-23, 8-15)	9.9% / 6,550
9月23日(月)	日本 3-0 ケニア(25-18, 25-22, 25-20)	10.8% / 6,850
9月24日(火)	日本 0-3 ブラジル(14-25, 21-25, 23-25)	9.2% / 6,650

【大阪ラウンド】

日付	試合結果	視聴率／入場客数
9月27日(金)	日本 3-2 セルビア(21-25, 21-25, 25-20, 25-20, 15-6)	8.4% / 7,430
9月28日(土)	日本 3-0 アルゼンチン(26-24, 25-15, 25-14)	9.4% / 7,640
9月29日(日)	日本 3-1 オランダ(25-18, 27-25, 24-26, 25-21)	12.1% / 7,810

➤最終順位

順位	チーム	順位	チーム
1位	中国	7位	ドミニカ共和国
2位	アメリカ	8位	オランダ
3位	ロシア	9位	セルビア
4位	ブラジル	10位	アルゼンチン
5位	日本	11位	ケニア
6位	韓国	12位	カメルーン

➤個人賞

1st ベストアウトサイドスパイカー	シュ・テイ (CHN)
2nd ベストアウトサイドスパイカー	ケルシー・ロビンソン (USA)
1st ベストミドルブロッカー	ガン・ニ (CHN)
2nd ベストミドルブロッカー	イリーナ・コロレワ (RUS)
ベストリベロ	オウ・ムケツ (CHN)
ベストセッター	テイ・カ (CHN)
ベストオポジット	アンドレア・ドルーズ (USA)
MVP	シュ・テイ (CHN)

■男子大会

➤開催期間：10月1日(火)～10月15日(火)

➤開催都市：福岡、長野、広島の3都市

➤参加国：各5大陸のFIVBランキング上位2か国、2018世界選手権優勝国、開催国
計12チーム

出場枠	チーム	
開催国	日本	
2018WCH 優勝国	ポーランド	
アジア	イラン	オーストラリア
アフリカ	エジプト	チュニジア
ヨーロッパ	イタリア	ロシア
南米	ブラジル	アルゼンチン
北中米	アメリカ	カナダ

➤試合数：延べ66試合(1日3試合×11日×2開催地)

➤日本代表試合結果

【福岡ラウンド】

日付	試合結果	視聴率/入場客数
10月1日(火)	日本 3-0 イタリア(25-17, 25-19, 25-21)	10.8%/ 8,350
10月2日(水)	日本 1-3 ポーランド(23-25, 17-25, 25-19, 17-25)	10.3%/ 8,400
10月4日(金)	日本 3-0 チュニジア(25-23, 25-21, 25-11)	10.5%/ 8,500
10月5日(土)	日本 0-3 アメリカ(19-25, 19-25, 21-25)	6.7%/ 8,200
10月6日(日)	日本 3-1 アルゼンチン(25-19, 25-20, 26-28, 25-22)	9.0%/ 8,900

【広島ラウンド】

日付	試合結果	視聴率/入場客数
10月9日(水)	日本 3-0 オーストラリア(25-17, 25-22, 25-22)	9.0%/ 6,780
10月10日(木)	日本 3-1 ロシア(25-22, 21-25, 25-22, 25-16)	10.4%/ 6,620
10月11日(金)	日本 3-2 エジプト(25-14, 18-25, 25-23, 28-30, 15-13)	11.5%/ 6,830
10月13日(日)	日本 3-1 イラン(25-16, 26-28, 25-13, 25-21)	5.9%/ 6,900
10月14日(月)	日本 1-3 ブラジル(17-25, 26-24, 14-25, 25-27)	13.5%/ 6,950
10月15日(火)	日本 3-2 カナダ(22-25, 25-20, 25-23, 23-25, 15-9)	12.7%/ 6,750

➤最終順位

順位	チーム	順位	チーム
1位	ブラジル	7位	イタリア
2位	ポーランド	8位	イラン
3位	アメリカ	9位	カナダ
4位	日本	10位	エジプト
5位	アルゼンチン	11位	オーストラリア
6位	ロシア	12位	チュニジア

➤個人賞

1st ベストアウトサイドスパイカー	ウィルフред・レオン (POL)
2nd ベストアウトサイドスパイカー	石川祐希 (JPN)
1st ベストミドルブロッカー	マックスウェル・ホルト (USA)
2nd ベストミドルブロッカー	ルーカス・サートキャンプ (BRA)
ベストリベロ	タレス・オス (BRA)
ベストセッター	マイカ・クリステンソン (USA)
ベストオポジット	西田有志 (JPN)
MVP	アラン・ソウザ (BRA)

②国際貢献・交流事業

1) FIVB 及び AVC 役員等派遣事業

世界のバレーボール界の統轄組織である FIVB 及びアジアの統轄組織である AVC の理事職及び競技運営、審判規則、技術・コーチ、医事、ビーチバレーボール他各種委員会の委員として本会の代表を派遣、世界のバレーボール界の発展に尽力し国際的な貢献を行なう。本年は、FIVB 及び AVC 理事会ほか各種会議に当該メンバーを派遣するとともに、FIVB および AVC が主催する大会へ役員ならびに審判員を派遣した。

2) バレーボールバンク事業

自国におけるバレーボール普及発展のため用器具等の援助が必要な国に対し、競技会やトップバレーボールチームが使用したボール、その他バレーボール用器具を寄贈して競技の普及を図り、同時に様々なバレーボール情報を提供し、発展途上国等でのスポーツ振興に寄与した。

併せて同事業の戦略的展開を通じ、寄贈対象となった各国の NF との友好を結び、連携強化を図った。

(3) 講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業

①競技者拡大

近年の競技人口の減少は憂慮すべき事態であり、特に小学生、中学生が著しく減少している。競技人口を増やすことは喫緊の課題であるため、競技者拡大に向けた事業の検証・整理を行い、現行の事業のリニューアルも含めた計画（中期・長期含む）を設定した。また、競技者の更なる拡大・競技の継続に向け、新規事業を立ち上げ競技者拡大を図ることを念頭に、今年度は以下の事業を実施した。

1) Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室

小学生のバレーボール未経験者及び初心者を対象に、Vリーグ選手が参加してバレーボール教室を全国5会場（佐賀県、千葉県、島根県、沖縄県、岐阜県）で開催。（795名参加）

2) 中学校ビギナー選手バレーボール大会推進事業

中学1年生への競技継続のモチベーションの醸成と共に、競技の魅力及び競技力の向上を目的とするためのバレーボール教室及び大会を全国11会場（北海道、群馬県、茨城県、東京都、岐阜県、長野県、富山県、和歌山県、島根県、高知県、熊本県）で開催。（約2,700名参加）

3) 全国小中一貫バレーボール教室事業

小・中学生合同のバレーボール教室を実施する。一貫指導の充実とバレーボール人口の増加を図ることを目的として、全国2会場（沖縄県、静岡県）で開催。（203名参加）

4) 幼稚園・保育園等でのソフトバレーボール（風船等）実践事業

ソフトバレーボールを通して、幼児期にバレーボールの楽しさを伝えるとともに、ボールを使ったコーディネーショントレーニングを実践し、幼少期の運動能力・発育を促すことを目的として、全国7会場（北海道、岩手県、栃木県、三重県、大阪府、山口県、長崎県）で開催。（261名参加）

5) アンダー10大会促進事業

小学4年生以下を対象としたチーム内でレギュラー以外の選手の競技継続と、バレーボール接触機会と競技の楽しさを味わってもらい、次カテゴリーでのバレーボール継続を促進する大会として、全国8ブロック20会場（東北5県、関東2県、東海1県、北信越3県、近畿2県、中国3県、四国1県、九州3県）で開催。（6,298名参加）

②指導者養成・認定事業

各種別の指導者を対象に以下の主な養成講習会等を開催した。

1) 都道府県別バレーボール指導者研修会

各都道府県における指導者の資質向上とクラブや部活動における諸問題の解決を図るための研修を行うと共に、これから、地域において新たに指導者を目指す者の育成と普及・振興を目的として、全国14会場（山形・群馬・埼玉・千葉・東京・静岡・岐阜・滋賀・大阪・島根・岡山・広島・佐賀・熊本）で開催。

参加者数：427人

2) 日本スポーツ協会からの受託事業として、日本スポーツ協会公認コーチ4、コーチ3、コーチ2、コーチ1、バレーボール専門教科認定講習会等、資格取得に向けたバレーボール専門科目の講習会を実施。

コーチ4（旧：上級コーチ）・コーチ3（旧：コーチ）

日時：8月3日(土)～7日(水)

場所：明治学院大学（東京都）

修了者数：コーチ4：15名、コーチ3：52名

コーチ2（旧：上級指導員）・コーチ1（旧：指導員）

場所：20会場・3団体（北海道、青森、岩手、山形、福島、群馬、埼玉、東京、神奈川、長野、愛知、岐阜、三重、京都、和歌山、大阪、兵庫、愛媛、鹿児島、沖縄、日小連、クラブ連、私学連盟）で開催

修了者数：コーチ2：22名、コーチ1：853名

スタートコーチ（新設）

場所：全国 6会場（福島、新潟、静岡、大阪、高知、長崎）で開催

終了者数：969名

3) 本会公認講師認定講習会・公認講師及び公認指導者研修会

本会が開催する講習会の講師を務める指導者を対象として、認定講習会及びスキル向上のための研修会を開催。

公認講師及び公認指導者研修会

日時：8月24日(土)～25日(日)

場所：ホテルマイステイズ新大阪コンファレンスセンター（大阪府）

受講者数：36名

公認講師認定講習会

日時：12月14日(土)～15日(日)

場所：明治学院大学（東京都）

認定者数：6名

4) 全国小学生バレーボール指導者研修会

小学生に正しく、楽しいバレーボールを指導するための指導方法について研修し、指導者の資質向上を目的として第一次・第二次講習会を開催。 ※第三次講習会は開催をしない。

一次講習会（JSPOスタートコーチ資格取得・更新研修）

場所：全国 6会場（福島、新潟、静岡、大阪、高知、長崎）で開催

受講者数：989名

二次講習会（JSPOコーチ1専門科目）

場所：全国 4会場（山梨、滋賀、山口、福岡）で開催

受講者数：187名

5) 全国中学生バレーボール指導者研修会

中学生への指導方法を把握すると共に、指導者の資質の向上と現在の諸問題を解決することを目的に研修会を実施。

場所：全国 9会場（北海道2回、福島、東京、新潟、奈良、大阪、岡山・佐賀、沖縄）で開催。

参加者数：305名

6) 大学生バレーボール部員対象指導者講習会（コーチ1専門科目）

東会場

場所：東京都で開催

受講者数：92名

西会場

場所：大阪府で開催

受講者数：67名

7) ビーチバレーボール指導者研修会

ビーチバレーボールの技術向上に関する指導者研修会とクリニックを開催。

日程：10月19日(土)～20日(日)

場所：栃木県足利市「足利五十部運動公園ビーチバレーボールコート」で開催

参加者数：66名（指導者研修・クリニック）

8) ソフトバレーボール指導者資格認定事業

ソフトバレーボール リーダー

場所：全国 12 会場（秋田、山形、茨城、埼玉、東京、福井、静岡、大阪、広島、山口、徳島、福岡）で開催

受講者数：488 名

マスターリーダー

場所：大阪府

受講者数：40 名

③審判員等養成・育成事業

国際大会における競技役員および国内競技会の適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員の育成と技術向上を目的に、以下の講習会・研修会を開催した。

講習会・研修会名等	開催期間	開催地・会場等
全国ラインジャッジクリニック	4/30～5/2	丸善インテックアリーナ大阪
国際審判員（候補）審判技術強化事業	4/30～5/3	丸善インテックアリーナ大阪
6人制 S3 レフェリー技術強化事業	5月～8月	全国各ブロックで開催
9人制 N2 レフェリー技術強化事業（N1 レフェリー審査）	5/1～3 5月～8月	大阪（住友電工伊丹） 全国各ブロックで開催
A級審判員資格審査講習会	8/10～14	大阪（近畿大学）
9人制審判員育成事業	10/18-21,24-27	鳥取市、青森市
A級審判員研修会（6人制）	11/25～27	東京（大田区総合体育館他）
A級審判員研修会（9人制）	11/29～12/1	丸善インテックアリーナ大阪
全国審判委員長研修会・全国6人制審判講習会	2020年 3/20	東京（ビジョンセンター新宿）
全国9人制審判講習会は新型コロナウイルス感染予防により中止した	講義内容は DVD 視聴にて対応	

(4) 全国大会等国内競技会開催事業

①天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会

国内最高峰の大会として位置づけられている本大会は、開催都道府県および各ブロックの協力のもと、都道府県ラウンドまでは順調に運営されたが、ブロックラウンドは台風の影響で大会が開催できないブロックがあった。また、ファイナルラウンドは新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、大会が開催できなかった。

1) 都道府県ラウンド：

※参加チーム数（男子 508、女子 465、参考：前年度 男子 487、女子 433）

開催期間：4月28日～8月3日

開催場所：各都道府県内体育館

2) ブロックラウンド：

開催期間：8月31日～10月20日

開催場所：各地域ブロック内体育館

※台風の影響により、関東・近畿ブロックが大会を開催できず、ブロックの会議にてファイ

ナルラウンドへの推薦チームを決定した。

3) ファイナルラウンド:

※新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、大会を中止とした。

②全日本小学生大会 (男女・混合大会)

1) 都道府県大会:

開催期間: 4~7月

開催場所: 各都道府県内体育館

2) 全国大会:

開催期間: 8月6~9日

開催場所: 川崎市他 (とどろきアリーナ他)

優勝 男子: 東京杉一 (東京都)、女子: 上黒瀬 (広島県)、混合: 夢前JVC (兵庫県)

③第33回全国都道府県対抗中学大会 (JOC カップ)

開催期間: 12月25~28日

開催場所: 大阪市 (丸善インテックアリーナ大阪、エディオンアリーナ大阪 他)

優勝 男子: 大阪北、女子: 東京

④全日本高等学校選手権大会

開催期間: 2020年1月5~7日、1月11~12日

開催場所: 東京都調布市 (武蔵野の森総合スポーツプラザ)

優勝 男子: 東山高校 (京都府)、女子: 東九州龍谷高校 (大分県)

⑤秩父宮賜杯・秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会

開催期間: 11月25日~12月1日

開催場所: 東京都 (大田区総合体育館、墨田区総合体育館 他)

優勝 男子: 早稲田大学、女子: 筑波大学

⑥前述各競技会に加え本会主催、開催地都道府県協会等の主管により、以下の各種別全国大会を開催した。

※詳細は、本会のホームページをご覧ください。

大会名等	開催期間	開催場所
第5回全日本9人制バレーボールトップリーグ 女子レギュラーラウンド	6/1~7/28	大垣市総合体育館、猫田記念体育館、吉田文化体育センター、神戸市中央体育館
第5回全日本9人制バレーボールトップリーグ 女子ファイナルラウンド	8/10~11	墨田区総合体育館
第5回全日本9人制バレーボールトップリーグ 男子大会	台風19号による荒天予想により大会中止	
第71回全日本9人制実業団女子選手権大会	7/26~28	伊予市民体育館体育館
第72回全日本9人制実業団男子選手権大会	7/26~29	愛媛県総合運動公園体育館ほか
第39回全日本9人制クラブカップ女子選手権大会	8/2~4	丸善インテックアリーナ大阪

第 39 回全日本 9 人制クラブカップ男子選手権大会	8/9～12	加古川市立総合体育館ほか
第 18 回全国社会人西ブロック男女優勝大会	10/19～21	鳥取産業体育館 他
第 18 回全国社会人東ブロック男女優勝大会	10/24～27	新青森県総合運動公園ほか
第 88 回全日本 9 人制総合女子選手権大会 第 89 回全日本 9 人制総合男子選手権大会	11/2～12/1	丸善インテックアリーナ大阪
第 10 回全国 6 人制バレーボールリーグ 総合男女優勝大会・地域リーグ	4 月～12 月	全国各地
第 10 回全国 6 人制バレーボールリーグ 総合男女優勝大会・東西決勝リーグ	1/25～3/1	決勝リーグ各体育館
第 10 回全国 6 人制バレーボールリーグ 総合男女優勝大会・グランドチャンピオンマッチ	3/7	騎西総合体育館（埼玉県）
第 68 回黒鷲旗全日本男女選抜優勝大会	5/1～5/6	丸善インテックアリーナ大阪
第 39 回全日本 6 人制クラブカップ男子選手権大会	8/8～11	旭川大雪アリーナほか
第 39 回全日本 6 人制クラブカップ女子選手権大会	8/9～12	福井県営体育館他
第 22 回全国ヤングクラブ優勝大会	9/21～22	東和薬品 RACTAB ドームほか
第 27 回全国ソフトバレーシルバーフェスティバル	10/11～13	宮崎県体育館
第 21 回全国ソフトバレーレディースフェスティバル	10/25～27	草薙総合運動場・このはなアリーナ
第 8 回全国ソフトバレースポレクフェスティバル	11/1～3	沖縄市体育館
第 4 回全国ソフトバレーフリーフェスティバル	11/9～10	福岡市総合体育館
第 10 回全国ヴィンテージ 8's 交流大会	11/8～10	那覇市民体育館、浦添市民体育館ほか

⑦公益財団法人日本スポーツ協会との共催により、以下の大会を開催した。

- 1) 国民体育大会バレーボール競技
開催期間：10/2～5 開催地：茨城県ひたちなか市・結城市
- 2) 日本スポーツマスターズ 2017
開催期間：9/ 21～24 開催地：岐阜県山県市ほか

⑧公益財団法人全国高等学校体育連盟等との共催により、以下の大会を開催した。

- 1) 全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技
開催期間：7/ 24～28 開催地：宮崎県都城市・小林市
- 2) 全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技
開催期間：7/30～8/3 開催都市：宮崎県都城市・えびの市
- 3) 全国高等学校定時制・通信制大会
開催期間：8/12～15 開催地：神奈川県平塚市

⑨公益財団法人日本中学校体育連盟等との共催により以下の大会を開催した。

- 第 49 回全日本中学校バレーボール選手権大会
開催期間：8/17～20 開催地：和歌山県和歌山市

(5) V. LEAGUE 開催及び開催支援事業

V リーグ機構が主催する V. LEAGUE について、日本代表の活動に軸を置く本会と、国内のトップリーグ戦を開催する V リーグ機構が、バレーボール界の普及・発展のために大会運営および各種事業を共同で開催した。

また、全国各地で開催される V. LEAGUE に、競技運営責任者（JURY）と審判員等を派遣し大会運営における支援を行った。

(6) 地域グループの育成および強化事業・バレーボール教室支援事業

本会の加盟団体および全国的に組織されたバレーボール競技団体の選手の発掘・育成と強化を図ると同時に、国内大会における MRS 登録に関するサポートや競技役員の派遣を通じて、各種事業の支援を行った。

(7) ビーチバレーボール事業

①競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

1) ビーチバレーボール男女日本代表チーム

東京 2020 大会でのメダル獲得を最大の目標とし、有力選手の強化と国際大会への派遣を行う。

■FIVB 世界選手権 (ドイツ、6/28～7/7)

東京 2020 大会での上位進出を見据えて、本大会での出場を目指した。結果、男女とも 12 年振りに世界選手権大会に出場したが、世界の壁は厚く以下の成績となった。

☆男子：上場雄也・石島雄介 37 位 ☆女子：石井美樹・村上めぐみ 33 位

■AVC アジア選手権 (中国、5/9～12)

東京 2020 大会での上位進出を見据えて、本大会でのメダル獲得を目指した。

☆男子：①高橋巧・長谷川徳海 9 位②白鳥勝浩・池田隼平 9 位③上場雄也・土屋宝士 17 位

☆女子：①石井美樹・村上めぐみ 5 位・②西堀健実・草野歩 9 位③溝江明香・橋本涼加 9 位

■FIVB ワールドツアー (2019 年 4 月～2020 年 3 月まで世界各国で開催)

FIVB ランキングポイントが東京五輪代表決定戦出場となるため男女とも多数のチームが出場した。(主な成績は下記の通り) (指)・・・強化指定選手

[男子の上位成績]

□WT ルワンダ大会 (1 Star)	1 位	庄司憲右・倉坂正人
□WT フィリピン大会 (1 Star)	2 位	上場雄也・平良伸晃
□WT フィリピン大会 (1 Star)	3 位	白鳥勝浩(指)・池田隼平(指)
□WT マレーシア大会 (1 Star)	3 位	村上斉(指)・土屋宝士(指)

[女子の上位成績]

□WT カナダ大会 (3 Star)	3 位	長谷川暁子(指)・二見梓(指)
□WT 中国大会 (2 Star)	2 位	石井美樹(指)・溝江明香(指)
□WT 各国 (2 Star)	3 位	鈴木千代・坂口由里香(4 回)
□WT 各国 (1 Star)	1 位	鈴木・坂口(2 回) 坂口・村上 石坪・柴
□WT 各国 (1 Star)	2 位	鈴木・坂口 藤井・熊田 坂口・村上
□WT 各国 (1 Star)	3 位	溝江(指)・橋本(指) 草野(指)・橋本(指) 石坪・柴 鈴木・永田 坂口・村上

■AVC アジアツアー (4 月に 2 大会、8 月に 1 大会開催)

FIVB ランキングポイント男女上位 2 チームを派遣

[男子の各大会最上位成績]

□タイ大会 4 位 (石島・上場)	□中国大会 9 位 (高橋・長谷川／白鳥・池田)
□台湾大会 5 位 (高橋・長谷川)	

[女子の各大会最上位成績]

- タイ大会 2 位 (石井・村上) ベトナム大会 1 位 (石井・村上)
 中国大会 5 位 (石井・村上) 台湾大会 3 位 (長谷川・二見)

■OQT (中国、9/18~22)

FIVB ランキングポイント上位 15 カ国に石井美樹・村上めぐみが入り OQT 出場権を獲得。上位 2 チームが東京 2020 オリンピック出場権獲得となる。残念ながらブラジル、スペインに負け第 1 フェーズ敗退となった。

■コンチネンタル第 1 フェーズ (中国、8/25~28)

東京 2020 オリンピック出場権獲得 (アジア代表) のために、男女各 2 チームを派遣。第 2・3 フェーズ進出を目指して出場。

[男子成績]

- 出場選手：①白鳥勝浩・石島雄介 ②長谷川徳海・高橋巧
 成績：準決勝台湾に勝利するも、決勝で中国に敗れ 2 位の成績

[女子成績]

- 出場選手：①石井美樹・村上めぐみ ②西堀健実・草野歩
 成績：準決勝台湾に勝利するも、決勝で中国に敗れ 2 位の成績

男女とも、2020 年 6 月 22 日~28 日に中国で開催されるコンチネンタル第 3 フェーズに出場権を獲得したが、東京五輪延期により来年に持ち越された。(出場権利は持ち越しとなる)

2) ビーチバレーボール世代別男女日本代表チーム

将来有望選手の発掘、育成、強化を目的に、選抜した選手を十分な準備を行った上で以下の世代別国際大会に派遣した。

■FIVB U-21 世界選手権 (タイ、6/19~23)

[男子成績]

- 出場選手：①後藤陸翔・安達龍一
 成績：17 位 (過去最高成績)

[女子成績]

- 出場選手：①永鳥サディア・オト恵美里
 成績：37 位

②講習会開催事業

ビーチバレーボールの審判員を対象に、ビーチバレーボール審判講習会および研修会を開催した。

講習会・研修会名等	開催期間	開催場所
ビーチバレーボールブロック審判講習会	4/7~6/30	全国 9 ブロックでの開催
レフェリーインストラクター認定講習会	5/4	丸善インテックアリーナ大阪
ビーチバレーボール A 級審判員技術強化事業	7/14~15 8/31~9/1	茨城県 (BVT2 高萩大会) 鹿児島県 (BVT2 大崎大会)
ビーチバレーボールレフェリー育成事業	8/5~8	神奈川県川崎市
ビーチバレーボール特別 A 級審判員講習会	8/12~14	近畿大学ほか

③全国大会等国内競技会開催事業

1) ジャパンビーチバレーボールツアー

2016年度の大会リニューアルより引き続き、日本におけるビーチバレーボール競技のより一層の発展と、日本から世界に羽ばたくビーチバレーボール選手の輩出を目的として、5～10月に全国各地で大会を開催した。トップツアーにあたる「BVT1」については都市および観光地などでの開催を主とした方針に則って新規開催地を追加し、盛況のなか開催することができた。国内における普及に向けて前進がはかられた。また、株式会社マイナビ様にツアー冠協賛になっていただき、「マイナビジャパンビーチバレーボールツアー2019」として開催した。

昨年度より引き続き、競技全体の商品価値を高めるべく、BVT1を主としたプロモーション拡充やブランディング強化を図った。

＜2019年度開催日並びに開催都市、参加チーム数、優勝チーム＞

大会名	開催期間	開催都市	参加チーム数、優勝チーム
第1戦 平塚大会 ガラナ・アンタルチカ杯	5/18 ～5/19	神奈川県 平塚市	男子：16、上場雄也/O'Dea Sam 女子：16、石井美樹/村上めぐみ
第2戦 立川立飛大会	6/8 ～6/9	東京都 立川市	男子：8、石島雄介/白鳥勝浩 女子：8、坂本実優/沢目繭
第3戦 沖縄大会	7/6 ～7/7	沖縄県 豊見城市	男子：12、石島雄介/白鳥勝浩 女子：12、坂口佳穂/村上礼華
第4戦 東京大会	7/20 ～7/21	東京都 品川区	男子：12、石島雄介/白鳥勝浩 女子：12、坂口佳穂/村上礼華
第5戦 松山大会	8/24 ～8/25	愛媛県 松山市	男子：12、西村晃一/柴田大助 女子：12、鈴木悠佳子/永田唯
第6戦 都城大会 第20回霧島酒造オープン	9/21 ～9/23	宮崎県 都城市	男子：12、石島雄介/白鳥勝浩 女子：12、長谷川暁子/二見梓
第7戦 名古屋大会	9/28 ～9/29	愛知県 名古屋市	男子：8、高橋巧/長谷川徳海 女子：8、石井美樹/村上めぐみ
ファイナル グランフロント大阪大会	10/12 ～10/13	大阪府 大阪市	男子：8、石島雄介/白鳥勝浩 女子：8、坂口佳穂/村上礼華

※台風等荒天の影響で、沖縄大会および都城大会は競技日程を変更して開催、ファイナルグランフロント大阪大会は10月13日の1日で開催。

2) 国民体育大会ビーチバレーボール競技（正式競技）

大会名等	開催期間	開催都市	参加チーム数、優勝チーム
第74回国民体育大会	9/13 ～9/16	茨城県 東茨城郡大洗町	男子：47、沖縄県(池城浩太朗/仲村英治) 女子：47、東京都(衣笠乃愛/菊地真結)

3) 日本選手権

各世代の日本一を決める日本選手権大会として、本年は以下の日程で実施した。

大会名等	開催期間	優勝チーム
荒井商事杯ビーチバレーボール・ジャパン・カレッジ 2019 第31回全日本ビーチバレー大学男女選手権大会	8/6 ～8/8	男子：神戸学院大学(関東/中川) 女子：松山東雲女子大学(武田/大本)
'19マドンナカップ in 伊予市 ビーチバレージャパン女子ジュニア選手権大会	8/8 ～8/11	東京都(衣笠/菊地)

第18回全日本ビーチバレージュニア男子選手権大会	8/9 ～8/12	茨城県/県立勝田工業高等学校 (齊藤/舟木)
第33回ビーチバレージャパン	8/10 ～8/12	男子：石島雄介/白鳥勝浩 女子：西堀健実/草野歩
ビーチバレージャパンレディース2019 第30回全日本ビーチバレー女子選手権大会	8/15 ～8/18	長谷川暁子/二見梓
第10回全国中学生ビーチバレー大会	8/16 ～8/17	男子：埼玉県(八潮市立潮止中学校) 女子：愛知県(Mt.dogs)

※台風による荒天のため、レディースは競技日程短縮のうえ開催。

(8) マーケティング事業

公益事業を安定的に推進し、バレーボールの社会的な価値および本会が所有する各種プロパティの価値を向上するため、大会告知などのプロモーション活動を官公庁他に行うとともに、本会事業の推進に賛同いただいている協賛社とのパートナーシップの強化を図った。また、新規協賛社の獲得に向け、積極的に営業活動を実施し、JVA スポンサーに加えて、ビーチバレーボールワールドツアー東京大会で大会スポンサーを獲得した。

(9) バレーボール用品・用具の公認・推薦事業

競技の公正、安全ほか競技者が安心して楽しくプレーできるよう、ボール、ネットほか用品・用具の公認・推薦の認定を行うとともに、競技者及び体育施設等へ、より良い用品・用具が提供されるよう、販売・製造事業者への働きかけを実施した。

また、公認審判員やソフトバレーリーダーなどに対しては、資格保有者としての自覚を促すため、公認物品の販売を通してその着用を推奨した。

(10) ルールブック販売事業

バレーボールの愛好者、審判員、指導者をはじめとする多くの関係者に対し、最新のルール情報を提供するために、公認ルールブックであるバレーボール6人制競技規則、同9人制競技規則、ソフトバレーボール競技規則、ビーチバレーボール競技規則を出版販売した。

(11) 肖像使用・バレとも・物品販売等公益事業の財源を獲得する事業

公益事業を安定的に推進するべく、以下の3事業を実施した。

① 肖像使用許諾事業

本会登録選手の肖像権等の管理運営を行い、肖像権使用料収入を得て、一定額を肖像が使用された選手等に配分した。

② バレともチケットサイト事業

バレともチケットサイトを通じて、会員ならではのチケット先行販売、特別チケット販売等の有用な情報を提供し、且つ財源の一助とした。

男女日本代表チームの国際親善試合では、ファンサービスや特別グッズ特典が付与された最高額券種をバレともチケットで限定販売し、コア層を対象としたチケットの新たな可能性に手応えを得た。

③ バレーボール関連グッズの販売事業

バレーボールの魅力を高め、見る人、する人の拡大に貢献するよう、商品の開発・販売、販売場所の開拓を実施した。

(12) 東京2020大会準備室

東京2020大会におけるバレーボール競技、ビーチバレーボール競技及びシッティングバレーボール競技の成功に向けて、以下の活動を推進した。また、「JVA東京オリンピック・パラリンピック競技大会準備委員会」は発展的解消とし、競技運営の分野においては公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（組織委員会）へのサポート業務を行った。

① FIVBとの連携の中、競技施設、競技運営、テストイベントにかかわる諸準備を行った。

② NTO（競技役員）の候補者に対して、競技会での研修会を開催した。

1) バレーボール種目

・黒鷲旗全日本選抜男女選抜大会（5月）

NTO（スコアラー、ラインジャッジ）研修（講義と実技）

・FIVBネーションズリーグ男子大会・女子大会（6月）

NTO（スコアラー）研修（講義と実技）

・FIVBワールドカップ男子大会・女子大会（9・10月）

NTO（コーディネーター、スコアラー、ラインジャッジ）研修（講義と実技）をFIVB審判規則委員会委員長の指導のもとで行った。

・スーパーカレッジ男子・女子選手権大会（12月）

NTO（ラインジャッジ）研修（講義と実技）

2) ビーチバレーボール種目

・JBVT第2戦立川立飛大会（5月）

NTO（スコアラー、ラインジャッジ）研修（講義と実技）

・JBVT第4戦東京大会（7月）

NTO（コーディネーター、スコアラー、ラインジャッジ）研修（講義と実技）をFIVB審判規則委員会ビーチバレー審判長の指導のもとで行った。

・FIVBワールドツアー4スター大会（7月）

本大会は、テストイベントも兼ねて開催された。

NTO（コーディネーター、スコアラー、ラインジャッジ）研修（講義と実技）をFIVB審判規則委員会ビーチバレー審判長の指導のもとで行った。

※FIVB大会についてはFIVBより講師を招き有益な研修を行った。

※各種競技会においてVISの研修会を行った。

③ 開催地協会主催で競技役員の語学研修会と自己研修を行った。

④ シッティングバレーボールの審判役員については、千葉県バレーボール協会の協力により研修を行った。

⑤ 7月に組織委員会主導の東京2020大会の告知イベントに積極的に参加した。

⑥ 2月の「有明アリーナ」完成披露式典の諸準備に協力し、日本代表女子チームが模範演技を披露した。

⑦ バレーボール月刊誌において東京2020大会の告知ページを企画し、毎月情報を掲載した。

- ⑧ 「アスリートファースト」及び「レガシープラン」を念頭に、東京都オリンピック・パラリンピック準備局及び組織委員会との緊密な連携と協力のもと、各種準備を進めた。

(13) 体罰・暴力・ハラスメント撲滅推進部

「体罰・暴力・ハラスメント撲滅対策委員会」を立ち上げ、過去のデータの取りまとめや、発生分析と共にアクションプランを作成した。

意識の向上を図り、ビジュアルでのアピールを高めるため「撲滅推進ポスター」を作り、全国に3,000枚配布し競技会場、関係施設への掲示をお願いした。

加盟団体代表委員総会において「グットコーチングセミナー」を開催し、アクションプランの説明と共に加盟団体役員への意識向上を図った。

過去のコンプライアンス違反の事案に関してはJSPOとの連携を図りつつ、コンプライアンス委員会への報告を随時行い、速やかな対処・解決に努めた。

(14) その他の重点項目

- ① JVA ホームページにNFならではの競技データを盛り込み、シニアカテゴリーだけでなく次代を担うアンダーエイジカテゴリーの情報を充実させた。力のある媒体にバレーボールの魅力を載せる広報戦略により、バレーボールの情報を広く発信させた。
- ② MRS 登録に際して、新たに登録フロー図を掲載し、必要に応じてサポートを行った。また、2020年度のヴィンテージ大会の参加におけるMRS登録を義務化した。今後は、MRS会員の獲得と増加を目指し、分かりやすく登録しやすいシステムを構築し、更なる競技者拡大を図っていく。
- ③ Vリーグ機構が加盟団体に加わり、連携を更に強化した。
- ④ 競技の高潔性を保ちアンチ・ドーピングを遵守する。
日本代表選手（シニア・ユニバ・ジュニア・ユースを含む）やトップリーグの選手、チームスタッフに対して講習会を実施し、バレーボール界における更なるアンチ・ドーピングに関する知識の浸透を図った。
また、大会参加選手へのガイドブック（「Play True Book」）の配布や高校生に対してのアウトリーチプログラムの実施等、幅広い年齢層へのアプローチをした。

以上